

研究テーマ	造形的な創造活動をするための基礎的な能力を培う工夫 —第2学年「かみを立てたかたちから」の実践を通して—
-------	---

利根町立文小学校 教諭 秋本 円

I 研究テーマについて

学習指導要領の目標に、「感性を働かせながら、作り出す喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培う」とある。「作り出す喜びを味わう」とは、児童の欲求を満たすと共に、自分の存在を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさにつながるとされている。また、「造形的な創造活動」とは、自分の思いを形や色などで表現したり、よさや美しさを感じ取ったりするなどの活動とある。この中の、「創造的な技能」は、材料や用具を用いたり、表現方法をつくりだしたりするなど、自分の思いを具体的に表現する能力である。

2 学年を担当した際、工作の題材において、児童の用具の使い方があまり身につけていないと感じた。ワークシートなどに自分の思い（イメージ）を膨らませ、絵として表現する活動では、高い意欲をもって活動に取り組んでいた。しかし、イメージしたものを実際に切って表現する段階では、思うようにはさみが扱えずに、途中で諦めてしまう児童がいた。

そこから、児童の多くが豊かな発想をすることができるが、表したいことを工作などに表現することでつまずき、造形活動を楽しめなかったり、作り出す喜びを味わうことができなかつたりするのではないかと考えた。造形的な創造活動をするための基礎的な能力を培うためには、まず児童一人一人が、自分の表したいものを用途や目的によって用具を使い分け、使用できることが大事である。「A 表現」の中でも「ウ造形的な技能」に注目し、さらにその技能を身につけるために、用具の適切な使用方法を身につけさせることで、創造的な技能が高まり、造形的な創造活動の基礎的な能力が培われると考え、この研究テーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 紙を立てたかたちから

2 題材の目標

- 試したり見つけたりしながら、自分らしい造形的な表現の追求と発見をする活動である。ここでは、紙の立て方や飾り方を工夫し、思いついたものをつくる。
- カッターナイフの正しく安全な使い方に慣れ、自分の思いついた形を工夫して作り出すことができる。

3 題材について

(1) 児童の実態 （第2学年1組31名）

本学級の多くの児童は、絵をかいたり、ものを作ったりすることが大好きで、図画工作の時間を楽しみにしている。特に絵や粘土にとっても関心が強く、自分の思い描くものを上手に表現できることから、意欲的に取り組む児童が多い。しかし、紙を切ったり、貼ったりする題材を扱う単元では、はさみを使用する段階で、はさみの使い方がまだ身につけていない児童が多く見られた。そのため、自分がイメージしたものを思うように表現することができず、作業をやめてしまう場面も見られた。そこで、児童のはさみやカッターの使用状況を調査したところ、学校以外でよく

はさみを扱うという児童は約半数程度で、カッターを使用したことがある児童に関しては、2名にとどまった。さらに、カッターに関しては、「怖いもの」「危ないもの」というイメージが強く、扱うことに抵抗があるという児童が半数以上であった。

(2) 題材観

本題材は、紙の折り方や立て方を工夫して試すなかで、偶然から生まれた形や意図的に表された形をもとに発想して、自分のテーマを決め、他の材料で飾りつけながら表現を工夫する。それから、立てた紙に切り込みや穴を開けることで、よりイメージを広げることができることをねらいとしている。これまでの授業で、切ることに興味をもち、意欲的に取り組んでいた本学級の児童にとって、様々な発展的な活動が期待できる題材であると考えた。

(3) 指導観

学習指導要領(3)材料や用具に関する事項では、「ア 第1学年及び第2学年においては、土、粘土、木、紙、クレヨン、パス、はさみ、のり、簡単な小刀類など身近で扱いやすいものを用いることとし、児童がこれらに十分に慣れることができるようにする。(略)「はさみ、のり」は切断や接着する用具として示してある。「簡単な小刀類」は、厚紙などを切るための扱いやすいカッターナイフや、木の枝などを少しずつ削ったりできるような児童の手に合った安全な小刀などのことである。」とある。初めてカッターナイフを扱う児童が多い本学級では、カッターナイフの安全で正しい使い方を身につけることで、自分の思いを表現していくことの楽しさを味わわせたい。そこで、本題材に入る前に、カッターナイフの安全で正しい使い方を指導する。そして、この題材でははさみやカッター、のりの扱いに慣れるようにするとともに、紙の折り方や切り方を工夫して、自分でつくる楽しさを味わえるようにしたい。

また、事故防止のために、安全な扱い方について指導することが重要である。その際、教師の一方的な説明で終わるのではなく、実際に取り扱うなどして、児童が実感的に理解できるようにしていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
紙を立てたかたちから思いついた活動をすることに興味関心をもとうとする。	紙を立てた状態や特徴からイメージを広げ、自分なりのテーマを思いつくことができる。	紙の接着や加工方法を工夫したり、付け加える材料を工夫したりして、表現を追求することができる。	自分や友達の発想、材料の使い方のよさを感じ取ることができる。

5 指導と評価の計画(7時間扱い)

○印は時数

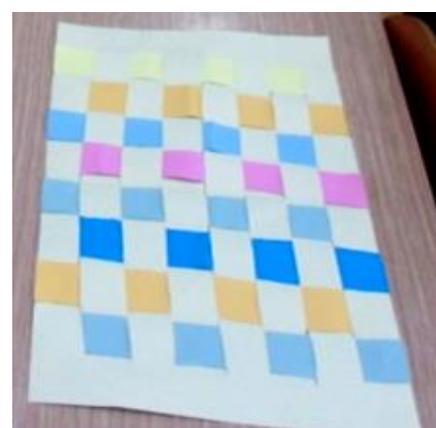
時間	学習活動・内容	評価基準・【評価方法】
第1次 ①	はさみの使い方を振り返り、安全に切ることができる。	・はさみを使って切り方を工夫している。 創【行動・作品】
第2次 ②	カッターナイフの安全な使い方を知り安全に切ることができる。	・正しく安全なカッターナイフの使い方に興味をもって活動している。 創【行動・作品】
第3次 ③	紙を立てた形から思いついた活動をすることに興味や関心をもつ。	・紙を立てた形から思いついた活動をするに興味や関心をもっている。 関【行動・観察】

第3次 ③	紙を立てた状態や様子からイメージを広げ、自分の表現したいテーマを思いつく。	<ul style="list-style-type: none"> ・色厚紙の立て方や曲げ方を工夫し、立てた形から自分の表したいもののイメージを広げることができる。 想【行動・表現】 ・立てた形にカッターナイフで窓の開け方を工夫している。 創【行動・作品】
	紙の接着や加工方法を工夫したり、つけ加える材料を選んだりしながら、自分の表現を追求する。	<ul style="list-style-type: none"> ・立てた紙の形からイメージを広げ、身近な材料などで飾ったり、組み合わせたりしている。 創【表現・作品】
第4次 ①	友達や自分の発想の違いや表し方の特徴に気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と自分の表し方の違いやよさに気づいている。 鑑【発話・ワークシート】

6 指導の実際

(1) はさみの安全な操作技能を高めるための関連題材での指導

1学期には、写真①のように、細長い色画用紙を互い違いにおり込んで、模様をつくる活動をした。算数科で学習した長さの単位を活用し、色画用紙を2つに折り、2cm幅の直線を書き、上5cmを残し線に沿って切った。違う色の色画用紙を2cm幅に20本つくる活動を行った。ここでは、線に沿ってまっすぐに切る技能を身につけることをねらいとし、定規で直線を引き、その直線に沿って切るよう指導した。その際、線に沿って切ることができず、曲がって切ってしまう児童や、はさみの持ち方が正しくなく、紙が破れてしまう児童がいた。そこで、正しい持ち方、切り方を個別に指導した。



写真① 直線に沿って切っており込んだ色画用紙

2学期の、教科書題材「ゆらゆらウキウキ」では、線に沿って直線だけではなく、曲線に切る技能を身につけさせる授業を行った。写真②のように画用紙に一筆書きで渦巻き模様を描き、その線に沿って曲線を切る活動を行った。途中で切れることがないように、線に沿って誰が一番長く切れるかということで、児童は意欲的に取り組む事ができた。

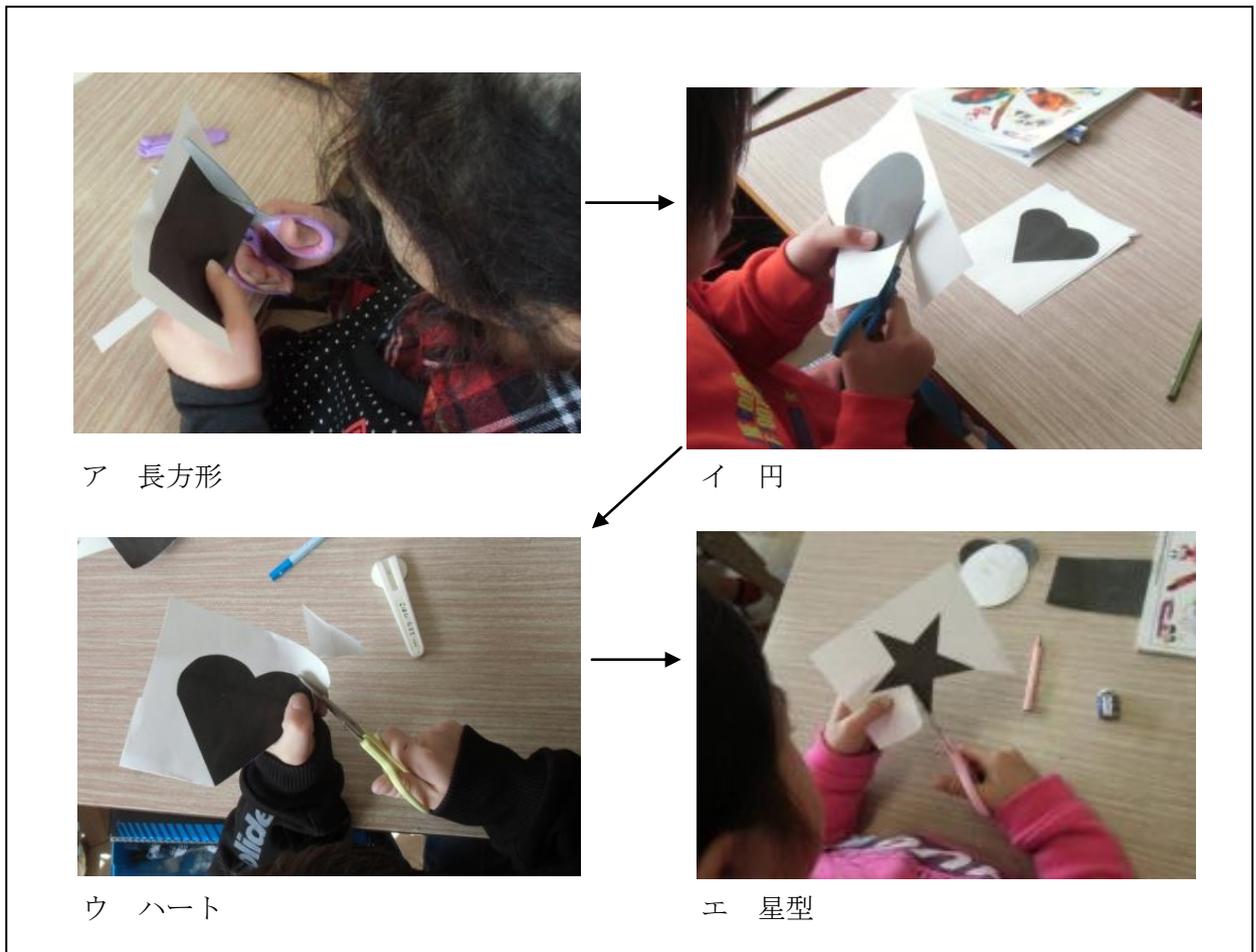


写真② 曲線に沿って切る活動

3学期の、教科書題材「あつまれ、おなじかたちいっぱい！」では、自分の考えたキャラクターを紙に描き、その線に沿って切る授業を行った。縁取り切りの技能を高めるために、キャラクターの縁を切る活動の前に、写真③のように、はさみの特徴や切るときのポイント、安全な使い方について全体での指導を行った。その後写真④のように、縁取り切りの練習として、ア直線で囲まれた形（長方形）、イ曲線で囲まれた形（円）、ウ直線と曲線の複合形（ハート）、エ折れ線で囲まれた形（星型）の4つの図形の縁を切る活動を取り入れた。



写真③ 全体での確認

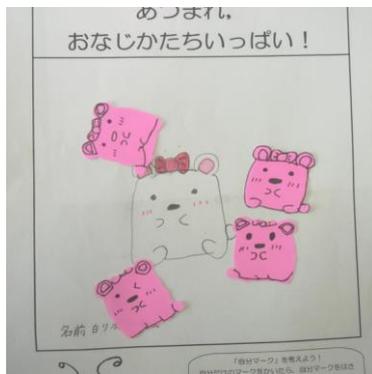


写真④ 枠取り切りの練習

この活動を通して、はさみを正しく安全に扱う力を身につけさせ、それを活用し、自分の考えたキャラクターを折った折り紙に描き、できるだけ多く切り抜くという活動を行った。紙を折ったものを切り抜くことで、自分たちが描いたキャラクターがいくつもできあがることから、楽しみながら取り組むことができた。中には、折り紙を何度も折り重ね過ぎて、紙が厚くなり、うまく切り抜くことができなくなってしまった児童も見られた。そこで、同じ形を切り抜くために、はさみで切り抜くことができる枚数（折り数）を考えて取り組むようにさせた。



写真⑤ 紙を動かしながら細かな部分を切る



写真⑥ イメージ通りに切ることができた



写真⑦ 同じ形を並べて、さらにイメージを膨らませる

自分がつくりたいものを形にするために、複雑な形も丁寧に縁を切ることができた。切った形からまたさらに自分の表したいもののイメージを膨らませることができた。

(2) カッターナイフの安全な操作技能を高める本題材での指導

はさみの安全な操作技能を高める活動を通して、表現活動を行ったあと、カッターによる表現活動を行った。これまでに、生活科で段ボールカッターを扱うことはあったが、児童の多くは、段ボールカッターよりカッターの方が切れて、危険なもの、怖いものと感じていた。そこで、はじめにカッターナイフの恐怖心を取り除くために、カッターナイフの便利性について実演した。はさみとは違う切り方、仕上がりに児童は興味を持ち、「自分たちでも早く扱ってみたい。」という声が聞かれた。児童が興味をもったところで、カッターナイフの危険性ととも、安全な使い方について指導した。(図①) カッターナイフの持ち方、押さえ方、刃の部分や、刃の出し方(出し過ぎない)、カッターマットを使って使用するなどを指導した。

① 定規をあてて縦にまっすぐに切る練習(図②)

画用紙に直線を引き、定規をあてて縦にまっすぐに切る練習をした。その際、カッターナイフを立てすぎたり、刃を寝かせて削るように切ったり、定規をうまく押さえられないなどで、上手に切ることができない児童が見られた。そこで、定規のあて方として、目盛りと反対側をあてて、カッターナイフを持っていない方の手でしっかり押さええるようにすること、カッターナイフの持ち方は、鉛筆を持つように、少し寝かせて、まっすぐ手前に引くようにして切るということを指導した。

② 横にまっすぐ切る練習(写真⑧)

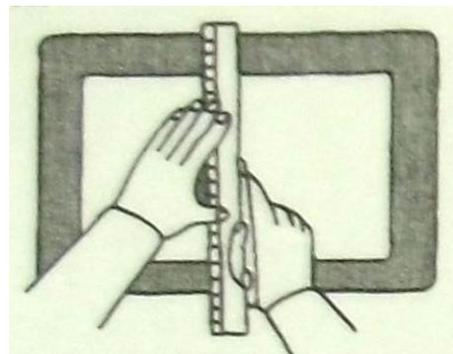
児童は、横に切るときも、縦に切るときと同じカッターナイフの持ち方をし、横に削るように切ろうとする子や、持ち方を変えてもうまく切ることができない児童がほとんどであった。そこで、横の直線を切りたい場合には、画用紙の向きを変えることで、縦線を切るときと同じように切ることができることを指導した。縦と横の直線をうまく切る練習として、画用紙に定規を使ってカタカナの「エ」をかき、線に沿って切ることを繰り返し行った。

③ いろいろな形に切り抜く活動(写真⑨)

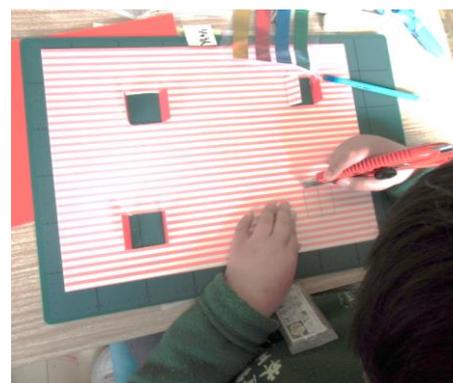
「かみをたてたかたちから」では、定規をあてて直線を切ったり、カタカナの「エ」の字に切り込みを入れて窓をつくったりするなど、カッターナイフの安全な使い方について気をつけながら、自分のイメージを膨らませ、活動



図① カッターの使い方ワークシート



図② カッターを使って直線を切る



写真⑧ カッターの向きをかえて切る活動



写真⑨ いろいろな形に切り抜く活動

に取りむことができた。

また、算数科の授業でも、長方形や三角形を画用紙に定規を使ってかき、それを切り抜く活動を行った。児童は、紙の向きを変えながらうまく切り抜くことができた。

III 研究の成果と課題

1 成果

(1) 造形的な創造活動をするための基礎的な能力を培う工夫として、はさみやカッターナイフの操作能力を高める指導を段階的・系統的に行うことで、確実に基礎的な能力を身につけることができた。

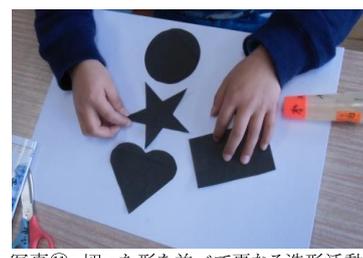
(2) 用具を扱うための基礎的な能力が身に着くと、自ら進んで表現しようとする児童が多く見られた。児童の造形的な創造活動をするためには、やはり用具を適切に扱うことができる力が必要であると感じた。

(写真⑩、⑪)

(3) 用具を扱う基礎的な能力が身につく、自分の思い（イメージ）を思うように表現できるようになると、他のさまざまな材料に興味をもち、他の材料でも表現しようとする児童が増えた。その結果更なる造形的な創造活動をすることができた。(写真⑫～⑭)



写真⑩ 自分の思いを進んで表現している



写真⑪ 切った形を並べて更なる造形活動へ



写真⑫ さまざまな材料を使つての活動



写真⑬ 材質の違う紙を同じ形に切って並べる



写真⑭ 材質の違う紙を切って組み合わせる

(4) 他の学年（第4学年）でも、造形的な創造活動をするための基礎的な能力を培うための取り組みとして、他の用具（カッターナイフ、のこぎり、彫刻刀）の適切な使用方法を身につけさせるための指導が行えた。(写真⑮～⑱)



写真⑮ のこぎりを使った活動



写真⑯ 彫刻刀に親しむ活動



写真⑰ カッターナイフ、のこぎり、彫刻刀を使った消しゴムはんこ作り



写真⑱ 自分だけのオリジナル消しゴムはんこ

2 課題

(1) 図画工作科の指導内容は、2学年をまとめたものなので、今後は2年間を見通して、他学年との連携を図りながら段階的・系統的に取り組み、造形的な創造活動の基礎的な能力を身につけさせたい。そして、用具の使い方をきちんと身につけることで、児童一人一人が自分なりのイメージを基に、様々な表し方を工夫することができる学習活動をより一層充実させたい。

(2) 図画工作科だけではなく、生活科、算数科などの他教科での指導と関連づけた、系統的な指導計画を作成していきたい。